



舞阪宿：脇本陣

東海道舞坂宿  
渡船場跡北雁木

江戸時代、舞坂宿の  
川舟の渡しの渡船場跡  
渡坂町跡の町並

渡船場跡：北雁木1

## 史跡 北雁木 (きたがんげ)

ここは浜名湖今切渡しの舞坂宿側の渡船場跡で  
明暦三年（一六五七年）から寛文元年（一六六一）年）  
にかけて構築されました。その後、江戸時代には災害  
で幾度か修復されています。両側の石垣の白い部分は  
昭和二十八年の台風で石垣が崩れたため積みなおし  
たものです。

雁木とは階段状になっている船着場のことをいいま  
すが、地元では「がんげ」と昔からいっています。

舞坂宿には三ヶ所の渡船場がありましたが、一番南  
側は主に荷物の積み降ろしをした渡荷場トウカセ。真ん中は旅  
人が一番多く利用した主要渡船場で本雁木ほんがみと呼ばれて  
います。

この北雁木は主に大名や幕府公用役人が利用したと  
ころで、往還オウカンから幅十間（約十八メートル）の石畳が  
水際まで敷きつめられています。

舞阪町教育委員会

北雁木2



浜名大橋(バイパス)



弁天島シンボルタワー



浜名湖



浜名湖2



新居宿へ





新居関跡1

史蹟新居關跡

新居關跡2



新居関跡3



新居関跡4



新居関跡5



新居関 本陣跡

泉町  
Izumicho

17号三ヶ日

301

大塚橋

新居関：本陣跡

本陣跡

本陣跡2

寄馬跡よばあと

宿場では公用荷物や公用旅行者のために人馬を提供する義務があり、東海道の宿場では常に百人の人足と百疋の馬を用意していた。

しかし交通量が多い場合は助郷制度といって付近の村々から人馬を寄せ集めて不足を補った。

こうして寄せ集められた人馬のたまり場が寄馬所と呼ばれた。

平成十六年三月

新居町教育委員会

新居宿：寄馬跡



寄馬跡

寄馬跡2

一里塚

新居一里塚

しんりつふあに  
一里塚跡

一里塚は、江戸の日本橋を起点として海  
濱の海側に一里（四キロメートル）ごとに  
土を盛り、その上土エノキなどを植えた塚、  
塚の目印として、旅行者にとっては馬  
や徒歩での計算などの目安となつた。  
慶長九年（一六〇四）二花村東邊本が一  
里塚を築かせたといわれ、東邊邊では百四  
九所あつた。

ここには左（東）にエノキ、右（西）に  
松が植えてあつた。

平成二十年三月

新居町教育委員会

一里塚跡2

ぼうばなあと

## 棒鼻跡

あらいししゅく

ここは新居宿の西境で、一度  
に大勢の人が通行できないよう  
に土塁どるいが突き出て枡形をなして  
いた。

棒鼻とは、駕籠かごの棒先の意味  
があるが、大名行列が宿場へ入  
るとき、この場所で先頭（棒  
先）を整えたので、棒鼻と呼ぶ  
ようになったともいわれている。

平成二十年三月

新居町教育委員会

棒鼻跡

棒鼻跡

棒鼻跡2



松並木



遠州灘



白須賀宿の街並み



高札建場跡

幕府・大名が、法令や禁令・  
通達を板札に墨書した高札を掲  
示した場所を高札建場または、  
単に建場といひ、宿場・渡船場  
・問屋場など、人の目につきや  
すい場所に設置されました。  
白須賀宿には、ここ元宿と東  
長谷に一箇所ずつ設置されてい  
たほか、加宿である境宿村にも  
一箇所、設置されました。

高札建場跡2

高  
札  
建  
場  
跡

高札立場跡



潮見坂



潮見坂2



潮見坂3

しおみさか

## 潮見坂公園跡

明治天皇が江戸へ行幸する途中に休まれた潮見坂上は、かつて織田信長が武田勝頼を滅ぼして尾張に帰る時、徳川家康が茶亭を新築して、信長をもてなした所でもあります。

大正十三年四月、町民の勤勞奉仕によりこの場所に公園がつくられ、明治天皇御聖跡の碑が建てられました。

現在は、公園敷地に中学校が建てられていて、当時の面影をみる事ができませんが、明治天皇御聖跡の碑だけは残されています。

潮見坂4

# 潮見坂上の石碑群

ここ潮見坂上には、明治天皇が明治元年十月一日にこの地で休憩されたのを記念に建てられた明治天皇御聖跡碑をはじめ、白須賀出身の国学者夏目寛庵と息子の加納諸平、正直者の藤屋五平、義僕平八郎らの顕彰碑や忠魂碑が建てられています。

また、ここから旧道を東へ百メートルほどいった所に元白須賀町長の山本庄次郎、医師で地域の文化振興に尽くした石川榮五郎らの石碑も建てられています。



白須賀宿1



## 曲尺手 かねて

曲尺手は、直角に曲げられた道のことで、軍事的な役割を持つほか、大名行列同士が、道中かち合わないようにする役割も持っていました。

江戸時代、格式の違う大名がすれ違ふときは、格式の低い大名が駕籠から降りてあいさつするしきたりでした。しかし、主君を駕籠から降ろすことは、行列を指揮する供頭きゆうとうにとっては一歩の失態です。そこで、斥候しやくこうを行列が見えない曲尺手の先に出して、行列がかち合いそうなら休憩を装い、最寄りのお寺に緊急非難をしました。

1

290

国道23号

まで

to Route

65

日本橋から290km



吉田宿：東総門（豊橋市）

東惣門 ひがし  
そう  
もん

東惣門は鍛冶町の東側に位置する下モ町の吉田城惣堀西で東海道にまたがって南向きに建てられました。

門の傍らには十二畳の上番所、八畳の下番所、勝手があり門外の西側に駒寄せ場十一間がありました。惣門は朝六ツ（午前六時）から夜四ツ（午後十時）まで開けられており、これ以外の時間は一般の通行は禁止されていました。

豊橋市 二〇〇二年三月

吉田宿  
東惣門



吉田宿：東総門2



楠並木2

とよはしの里手 名木100選  
 55 **くすの木邊のクスノキ並木**  
 所在地 八咫橋1丁目・御代宗廟（中津宮）



昭和15年頃に植えられたもので、樹齢80年以上の  
 大木が、並木に育ちあふ。

樹種 クスノキ、馬場、サトウ  
 樹高約 15m×15m  
 樹形特徴 広葉樹

樹齢 80年以上の老木  
 樹高 約15m、樹冠幅約15m  
 樹形 広葉樹、常緑樹

豊橋市

豊橋市：楠並木